

「お互いさま」の気持ちが支える地域活動

特集

今、見直される自治会組織

「自治会の会員ではあるけど、その必要性がよくわからない」、「会員になるメリットって何だろう・・・」、こう思ったことがある人は少なくないかもしれません。

自然災害が多く、高齢化が進む日本国内で、今地域の人と人とのつながりの大切さが注目を集めています。

今月はその中核組織である自治会についての特集です。熱心に活動をしている自治会を紹介します。皆さんが住んでいる地域の活動に目を向けてみませんか？

◎自治会ってなに？

自治会とは、同じ地域に住む人々が交流を通して地域のさまざまな問題に対処し、安心・安全な生活を維持するために、協力しながら活動している任意団体です。

今では、その存在自体が当たり前となつていますが、そもそも何を目的に作られたのでしょうか。

◎自治会の歴史

●明治から戦中まで、行政補完組織から国の行政末端組織へ

自治会の起源は、1889年（明治22年）の「市制町村制」法の成立によって作られた「行政区」が始まりとされています。市町村が発足し、多くの町村合併が進められる中で、行政の補助的役割を担う「補完組織」として形成されました。広域化した市町村では、細かな公共サービスを単独で行うことが困難だったため、「行政区」は地域の秩序維持のために大いに貢献しました。

その後、「行政区」は、「町内会・部落会」と名前を変え、1943年（昭和18年）には、太平洋戦争時の体制強化のもと、国の末端行政組織に変貌します。

江別に明確な自治組織が誕生したのもまさにこの頃。自警や物資の配給、防空演習などが町内会や隣組（注1）を通して行われました。住民による組織が、行政の協力団体として公的な性格を持ち、重要な役割を果たしたのです。

●戦後から現在まで、住民主導組織へ

戦後は、高度経済成長期による人口移動が急速に進み、都市や農村でも地域社会構造が大きく変化。弱体化した社会基盤を強化する目的で、市町村合併が繰り返されました。

記憶に新しい平成の合併では、「地域自治区」制度が制定され、住民による自治強化が求められるようになりました。住民同士が協力し合い、地域をまとめるという住民主導の活動と組織の構築が必要とされ、その基盤を自治会が担い、今日に至っています。

（注1）隣組＝第二次大戦時に国民統制のためにつくられた地域組織。

◎組織・運営資金

●自治会組織

～会員は世帯単位

自治会は、同じ居住区に住む各世帯を会員とし、会長・副会長・部長などの役員のほか、総務部・生活環境部などの部会、さらに区長・班長などから構成されます。

道内の自治会の役員は「選考委員会による選考」、「役員の中での互選」によって選ばれ、任期は約2年としているところが多数を占めています。また、班長は1年単位の輪番制が多いようです。

●運営資金

～会費は活動の貴重な資金
収入の多くは会費で、全体の約50%ほどを占めています

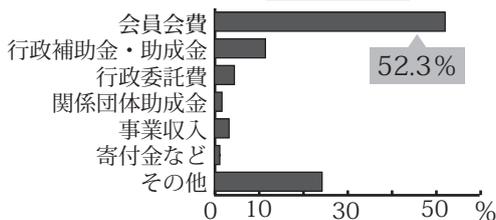
市内の自治会数

現在 162 の自治会があります。

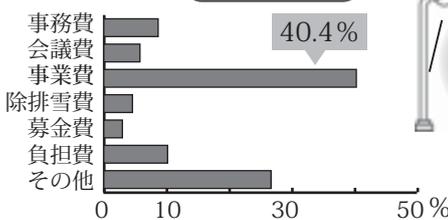
■江別地区	52
■野幌地区	48
■大麻地区	62

自治会加入戸数 38,838 戸
(2013 年 4 月現在)

グラフ① 収入



グラフ② 支出



(グラフ①参照)。ほかに、市の補助金や自治会が行っている資源回収から得た報奨金などが財源となっています。

参考：「北海道の単位町内会・自治会組織のすがた」（一社）北海道町内会連合会 2013.3

雪国だからこそその支え合い

冬期間の排雪費も、住民みんなで分担している自治会があります。

- 行っている 68.7%
 - ・会費に含む 45.3%
 - ・臨時徴収 15.6%
 - ・その他 7.8%
- 行っていない 31.3%



参考：「平成 23 年度自治会に関するアンケート集計結果」
江別市自治会連絡協議会、江別市 2011.6

●会費は地域のために使われています
会費の使途は活動内容により自治会ごとに異なります。一般的には、グラフ②のように、活動を支える事務費や会議費、見学旅行・敬老の集い・自治会の防犯灯の電気代や設置修理費など各種事業費として使われています。
防犯灯に関する費用は、支出全体の約1/3ほどを占めている自治会もあります。皆さんの家の周りには防犯灯は、自治会からの支出と市からの補助金によって賄われており、夜間の安全な環境づくりに役立てられています。

◎自治会の事業

自治会で行われている主な活動です。

①地域交流事業

親睦行事、研修旅行、研修会、スポーツ活動、市民活動団体との連携事業など



野幌代々木町西自治会 百人一首



上江別中原自治会 大運動会

②福祉育成事業

高齢者と交流会
敬老会の開催
お祭り・盆踊り
ラジオ体操
などの開催



のっぽろシティハウス自治会 自治会祭り

④安全な地域づくり

自主防犯パトロールなどの防犯活動
交通安全運動
災害に備えた各種
防災活動
地区内道路への防
犯灯設置と維持管理など



見晴台自治会 防災訓練

③清潔な地域づくり事業

地域清掃活動
集団資源回収
など



野幌代々木町花園自治会 大掃除

⑤地域自治活動事業

自治会報の発行
自治会館管理運営
自治会活動中のケガなどに対する保険加入など



自治会報



錦町新生自治会
福祉部長
小林 正枝さん



私たちの自治会では、高齢化率が30%と江別市の平均よりも5%も高くなっています。

普段の声掛けは民生委員が中心となり、ボランティアと協力して月1回程度行っています。大雪の時などは、給排気口が雪に埋まっていないかを見て回ったり、人が歩ける程度に玄関前の雪かきのお手伝いをすることもあります。自治会の文書などもなるべく手渡しするようにして、話に花が咲いて長話になることもありますね。逆に私が体調不良で外出できず久しぶりに会った時などは、「どうしたの?」とたくさんの人に声を掛けられました。お互い気に掛けているのだなと感じました。

また、地域交流会の集いでは、一緒に楽しみ、必ず一回は笑いましょうと参加者に呼び掛けています。最初は、皆さん緊張するようですが、2回目からは「次はいつやるの?」と聞かれ、楽しみにしてくれている人がいるんだと励みになります。

こうした取り組みはお互いが楽しんで、無理なく継続することが大切なんだと思います。

独り暮らしの高齢者・障がいのある方の世帯へ

声かけや交流会を

錦町新生自治会 会員数262戸

江別市でも高齢化率が25%を越えています。孤独死などが社会問題となる中、地域の見守り活動などが注目されています。

●愛のふれあい交流事業

一人暮らしや寝たきり、閉じこもりがちの高齢者・障がい者世帯などが孤立すること

なく、安心して暮らせるようサポートする活動で、江別市社会福祉協議会が自治会に呼び掛けて実施しています。

この事業には、日頃の安否確認を目的とする「愛のふれあい活動」と、閉じこもりの防止と心身のリフレッシュを目的とした「地域交流の集い活動」があります。

◎「地域交流の集い活動」の先駆け

錦町新生自治会では、民生委員とボランティアが協力し

て、65歳以上の独居老人や75歳以上の高齢者だけの世帯、障がいのある方の世帯を対象に声かけや地域交流の集いを開催しています。

市内の自治会としていち早く（平成14年度から）取り組んだ地域交流の集いは、年5回程度開催され、健康に関する勉強会や調理を楽しむ食事会など、さまざまな企画で地域の高齢者の楽しみになっています。

防災訓練

見晴台自治会 会員数1546戸

災害が起こった時、私たちが避難するのは、近くの避難所です。災害発生後初期に市職員が派遣できなかつたり、避難が長期化した場合、住民が運営の主体となることが想定され、避難所訓練などが行われています。

●江別市避難所運営訓練

10月5日(土)、6日(日)、対雁小学校で見晴台自治会と江別市の共催で避難所運営訓練が実施されました。

今年で3回目となるこの訓練は、地震発生後の避難所開設から運営を体験するもので、朝夕の炊き出しやダンボールハウスの作成・就寝、震災派遣職員の講話などに地域住民82名が参加しました。

■いざという時のために地域で防災訓練を！ 見晴台自治会の会長と総務部長にお話を聞きました

見晴台自治会では、平成9年に自主防災規程が策定され、年2回の防災研修会（災害図上訓練や避難所模擬体験ゲーム）を行ってきましたが、実際の災害時に対応できるマニュアルの必要性を感じていました。そこでまず避難所の運営を体験してみようということになり、市と話し合い実施することになりました。

■参加者からは好評

1泊2日の宿泊を伴う訓練でしたが、参加者からは、「行動を起こして初めてわかることがあった」「体験することで意識が生まれた」などおおむね参加して良かったという感想をいただきました。ただ、参加者が82名と当初予定した人数の約半分でした。こうした訓練は、当日訓練を体験することも大切ですが、日頃から防災・減災に意識を持ってもらうことが大切なので、参加者が増えるように、日頃の啓発活動が重要だと思います。

■課題は全市的な防災計画に活かしたい

平成26年度に自宅から避難所までの避難訓練を実施したいと思っています。

訓練を積み重ねていくことで、地域住民の防災への意識も高まり、マニュアルなども実際の災害時に役立つものになっていくと思います。

また、訓練で出た課題などを1自治会だけの問題とするのではなく、全市的な防災計画などにも活かしていくことが大切だと思います。



見晴台自治会 会長
阿部 健治さん



見晴台自治会 総務部長
佐藤 一雄さん





江別市自治会連絡協議会
事務局
井上 滋さん
(市民生活課市民活動係長)

自治会連絡協議会は、昭和41年から各地域活動の相互連携や自治会設置の促進など自治会全般の活動を推進しています。

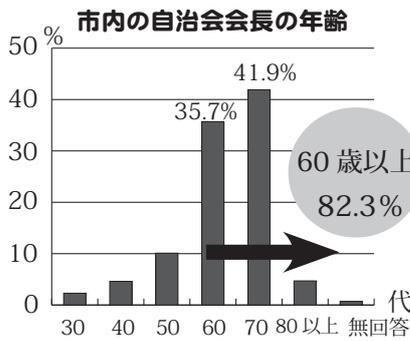
役員の高齢化と後継者の人材不足・会員の減少などが課題となっていますが、若い人たちにも参加してもらえるよう検討を重ねているところです。

仮に地域から自治会が姿を消してしまったらどうなるでしょうか。まず、住民が発案し実施する「自治会祭り」や「ラジオ体操」などの行事がなくなり、その地域は人の温もりのない非常に寂しいものになってしまうでしょう。

自治会の活動は決して「しなければならない」という義務や押しつけではありません。「住んでいる地域がこうなったらいいな・・・」という想いを実現させる機会と捉えてもらえればと思います。

「遠くの親戚より近くの他人」と言われるように、身近な気心の知れた人の存在ほど、日々の生活の中で心強いことはありません。自治会という地域の社交場を利用して、新たな出会いや、つながりのきっかけを作っただけだと思います。

◎実はこんな問題があります



参考：「平成23年度自治会に関するアンケート集計結果」江別市自治会連絡協議会、江別市 2011.6

- 役員
- ◎なり手がいない、少ない
- 活動・会員
- ◎活動への参加者が少ない
- ◎会員の関心が少ない
- ◎会員数の低下

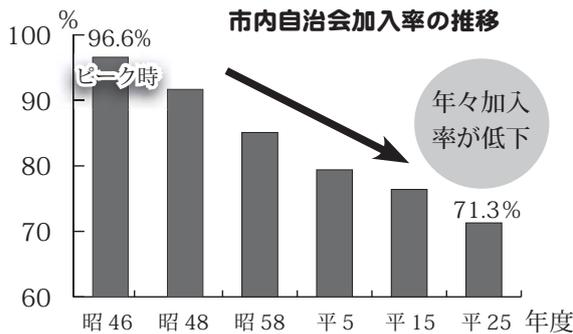


自治会からは「こんなことで困っているが、どう解決したらいいだろう」という声が上がっています。

自治会の役員は、多くが60代以上の方々です。平成23年度に行った市のアンケート調査によると、会長は70代が最も多く41・9%で、60歳以上となると82・3%と高齢化が進んでいます。次代の後継者がなかなか見つからない中、自治会の将来を危惧するケースも少なくありません。

これは、会員の活動参加状況にも関連しており、限られた会員のみの参加では、後継ぎの人材に出会えないというのが実情のようです。

一方会員からは、仕事や日々の生活などで、参加する時間的なゆとりがないという



た声が聞こえてきます。自治会が抱える最大の問題がこの世代交代。この先の安心・安全な地域づくりには、会員皆さんの関心が大きなカギになります。

◎見直そう、地域のつながり

阪神・淡路大震災や東日本大震災をきっかけに、地域の人と人とのつながりの重要性に気付かされたという人が多いようです。

大きな自然災害や危機に直面したときこそ、人は独りの力不足を実感するもの。事実、阪神・淡路大震災では、倒壊した家屋などの下敷きになり自力で脱出できなかった人の約8割は、近隣住民などによって救出されたとされています。

また、超高齢社会にあっては、一人住まいの高齢者や、

高齢者夫婦のみで生活している世帯も増えています。いざという時に自分や家族を守ったり、高齢者が一人で思い悩むことなく、地域で安心して暮らしていけるような社会を構築するには、住んでいる地域住民同士による普段からの支え合いが必要です。

■まずは、できることから

住民として、地域に果たせる役割があります。人々とのつながりの大切さを意識し、地域活動に目を向けてみてはいかがでしょうか。

これまで出たことのなかった行事に参加してみるなど、できることからやってみましょう。「お互いさま」の気持ちでよい住環境を皆さんの手で。

自治会加入パンフレットを作りました！



市民生活課市民活動係
中島 加七子さん
自治会活動をたくさんさんの写真で紹介しています。

自治会への加入をPRするパンフレットができましたので、必要な部数をご連絡ください。

☎市民生活課 ☎ 381-1018